

やる気と感動

学校だより 4号

平成29年

4月27日(木)

＝ 一年生 ふるさと探訪 ＝

郷土を愛する気持ちを深め自己の見聞や視野を広めること、また、集団行動を通して南部中一学年集団としての力を高め社会生活のルールやマナーを身につけることを目的に、入学したての4月14日金曜日、平成29年度校外学習“ふるさと探訪”が行われ、一年生55名が南部地区と富沢地区に分かれ、南部町の代表的な文化財や史跡・文化施設を巡りました。

富沢地区の講師佐野正剛氏には、最恩寺仏殿・金山神社のイチョウ・顕本寺のオハツキイチョウ・万沢口留番所跡・万沢宿と万沢氏についてなどを、南部地区の講師芦澤和彦氏には、諏訪神社・浄光寺・蒙軒学舎跡・妙浄寺・新羅神社・富士川舟運についてなどを詳しく教えていただきました。国指定の重要文化財最恩寺仏殿の歴史や特徴に驚いたり、南部氏の館跡に残る空井戸をのぞき込んだりする子どもたちの清々しい顔と、美しい桜吹雪がとても印象的な一日となりました。

また、午後からはアルカディア文化館にて、近藤浩一路記念南部美術館を見学しました。学芸員の若林さんと前田幸子先生からの説明を聞き、水墨画については事前に望月勅雄先生に指導していただいていたので、自分のお気に入りの一枚を探したり描かれている太陽の数を数えたりと充実した学習ができました。

桜花爛漫うらかな一日、私たちの“ふるさと南部町”を知る素晴らしい機会となり、たくさんの感動と思い出を作ることができました。

＝ 二年生 県内めぐり ＝

山梨、今回は甲府の歴史や文化、自然を学ぶという目的と、集団行動(宿泊)の大切さを学ぶという目的の二つの目的で行ってきました。県内めぐり実行委員会では「戮力協心(りくりよくきょうしん)」・全員の力を結集し、一致協力して役割を果たそう、というスローガンを打ち立て、各係ごとに取り組みました。

まず、第一の目的である甲府の文化や歴史、自然を学ぶ活動では、三～四人の少人数グループで、自分たちの計画したコースを巡りました。結果的には全員無事に帰ってくることができた訳ですが、バスや電車に乗り遅れたり、時間がなく、行くはずだった場所に行くことができなかつたり、道に迷ったりと、土地勘のなさや計画づくりの甘さが浮き彫りになりました。しかし、どのグループも元気に楽しく甲府の町を巡ることができたと、帰ってきた後の表情から伺うことができました。コースづくりの反省は修学旅行の取り組みにぜひ、生かしてほしいと思います。

二年生で宿泊する初めての夜、私たち教職員が一番気にかけていたのは入浴と就寝時刻でした。どちらも時間を意識しないといけないのですが、入浴係や部屋長、実行委員の生徒たちが周りに声をかけ全員無事、時間通りに入浴を済ませることができましたし、就寝時刻もおおむね時間通りでした。これは、とても大きな収穫でしたし、生徒たちも自信につながったと思います。

二日目は午前中に野外炊事、午後に昇仙峡での班行動でした。まず、野外炊事ですが、班ごとにカレーを作ります。薪に火を付け、ご飯を炊き、野菜を切りと、何もかも自分たちでやることになりました。火付けは担当の職員に褒められるほど早くできました。「南部の子は日頃からの山に出かけたり、火を付けたりしているのですか？すごいですね。」とお褒めの言葉をいただきました。しかし、飯ごうで炊いたご飯が・・・。芯米の班が多かったです。中ブタ入れっぱなしの班もありましたし。さらに、カレーのルーと水のバランスが微妙で、カレースープになった班が結構ありました。しかし、みんな楽しく作ったカレーはおいしかったと思います。

午後は、昇仙峡に行きました。出発が遅れたので、あまりじっくりと見ることはできませんでしたが、爽やかな風が吹き、心地よい水の音を聞きながら、班ごと楽しく行動できました。

この二日間は二年生にとって思い出に残る時間となりました。また、修学旅行にもつながる実り多い学習となりました。ありがとうございました。(二年主任 稲葉常明)